

# 北海道滝川市の国際交流員が母国シンガポールで観光PR

シンガポール事務所

北海道滝川市で国際交流員（CIR）として勤務するシンガポール人のツアオ・ファイさんが昨年12月、母国シンガポールの旅行代理店を訪問し、菜の花やグライダー、ジングスカンなどの観光資源を持つ滝川市の魅力を発信しました。

## 1 滝川の魅力を世界に発信したい

ツアオさんはイギリスのダラム大学で日本語を勉強し、より深く日本語を学ぶため京都の同志社大学に留学した後、東南アジア地域からはじめて滝川市CIRとして招致されました。ツアオさんは中国語、英語、日本語を話すことができるため、昨年4月から滝川市の情報を世界に発信する活動を行っています。

「シンガポールは北海道旭川市と同じ大きさの中に約500万人が暮らす国。観光を主要産業のひとつにしていて、美しい街並みの景観を誇る大都市ですが、人々は高層マンションに住み、庭を持つことはなかなかできません。滝川市では市民が広い庭や家庭菜園を持って、花や野菜を作っています。私の出身地であるシンガポールでは見ることができない光景です。」と、ツアオさんは話します。



咲き誇る滝川の菜の花

## 2 母国シンガポールで滝川のPRに躍動

滝川市を含む旅行パックの制作を促すため、ツアオさんは一時帰国に合わせてシンガポール系・日系旅行代理店を積極的に訪問し、観光パンフレットを活用するなどして、滝川市が誇る観光資源を分かりやすく説明しました。

シンガポール人でありながら滝川市に精通するCIRのツアオさんだからこそ、旅行代理店との意思疎通が円滑となり、滝川市の魅力を余すところ無く伝えることができます。

「農業体験は都市国家で暮らすシンガポール人に人気が出ると思います。是非こうした企画を実現させたいと思います。」と、ツアオさんは意気込みます。



グライダー体験飛行もできます

急増する東南アジアの訪日旅行者と同じ目線なので、東南アジアのCIRは日本の各地域の魅力を再発見するのに適任です。

（佐々木所長補佐 札幌市派遣）